

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：2024年2月20日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービススマイルタ陽丘店

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		学習室とプレイルームを活用しながら、机やイスなどレイアウトを状況に合わせて変化させている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		配置基準の人員を満たして適切な配置を行っている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		児童ロッカーに名前を記入している。学習室とプレイルームなど用途に合わせて使用する部屋をわかりやすく環境調整を行っている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		朝礼・終礼、その他全社的な会議を通してPDCAサイクル意見を集め、広く職員が参画している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		モニタリングやアンケートを基に保護者様からのご意向を把握して改善策を職員全員で検討を重ねている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		自社HPIにて公表している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		全社での会議や大阪医療福祉専門学校と連携しながら進めている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修を行ったり、外部研修に積極的に参加し、職員の資質向上に努めている。	
適切な支援の提	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		アセスメントを適切に行い、見学やモニタリングで児童の現状や事業所での活動の様子を共有しながら個別支援計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		ガイドラインに基づいたアセスメントツールを用意し、使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		児童や時期に応じたプログラムを職員全員で検討しながら連携し支援を行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		工作やSST、公園遊び、実験、課題の進行状況や定着状況などに合わせ、様々なプログラムを実施している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		利用時間や日数に合わせて子どもたちが主体的に活動できるよう計画して支援している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別活動や集団活動を各々のニーズに合わせて作成している。	

供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	就業開始時に朝礼を行い、支援内容についての確認や当日の役割分担や環境調整の共有を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	就業終了前に終礼を行い、1日の振り返りや確認事項の整理、共有を行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	個別の支援記録をとり、出来た点出来なかった点を明確に記載することを心掛け、よりよい支援ができるよう職員間で内容を共有している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○	定期的にモニタリングを行い、現状に合わせた計画の見直しに取り組んでいる。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	○	4つの基本活動を参考にしながら、支援を行っている。	

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		管理者、児童発達支援管理責任者等、その児童に合わせた職員が参加するようにしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		積極的に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や電話やLINEといった連絡ツールを使用し、その日の様子や課題についてお伝えし、共有し合っている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に運営規定・支援内容・利用者負担などについて説明を確実にしている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者様方の必要に応じて話を聞き、支援できるように努めている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情解決窓口を作り、迅速に対応し改善できる体制を整えている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月に一度活動予定を配布したり、ブログやタイムライン等も活用して行事について詳しく紹介している。	
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報に記載されている書類に関しては、鍵のかかる書庫に保管するよう徹底している。	

36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		絵カードなどを用いることにより配慮している。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		事業所内に保管し、いつでも閲覧できるようにしている。様々な事態を想定した避難訓練を実施している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		イベントの一環で防災訓練をしたり、事業所での様々な災害を想定した避難訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止、人権に関して研修を行うとともに、職員間で支援が適切かどうか相互確認を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		契約時に説明している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットや事故を防ぐため、共有事項を強化し、対策に努めている。	